

調査位置案内図



調査地：○

(国土地理院 「ウォッチず 電子国土基本図版 9000」より引用)

[カシミール3D(著作権者 DAN 杉本)を使用し地図画像を貼付け, 図中緯経線は各色 30 秒毎の格子]

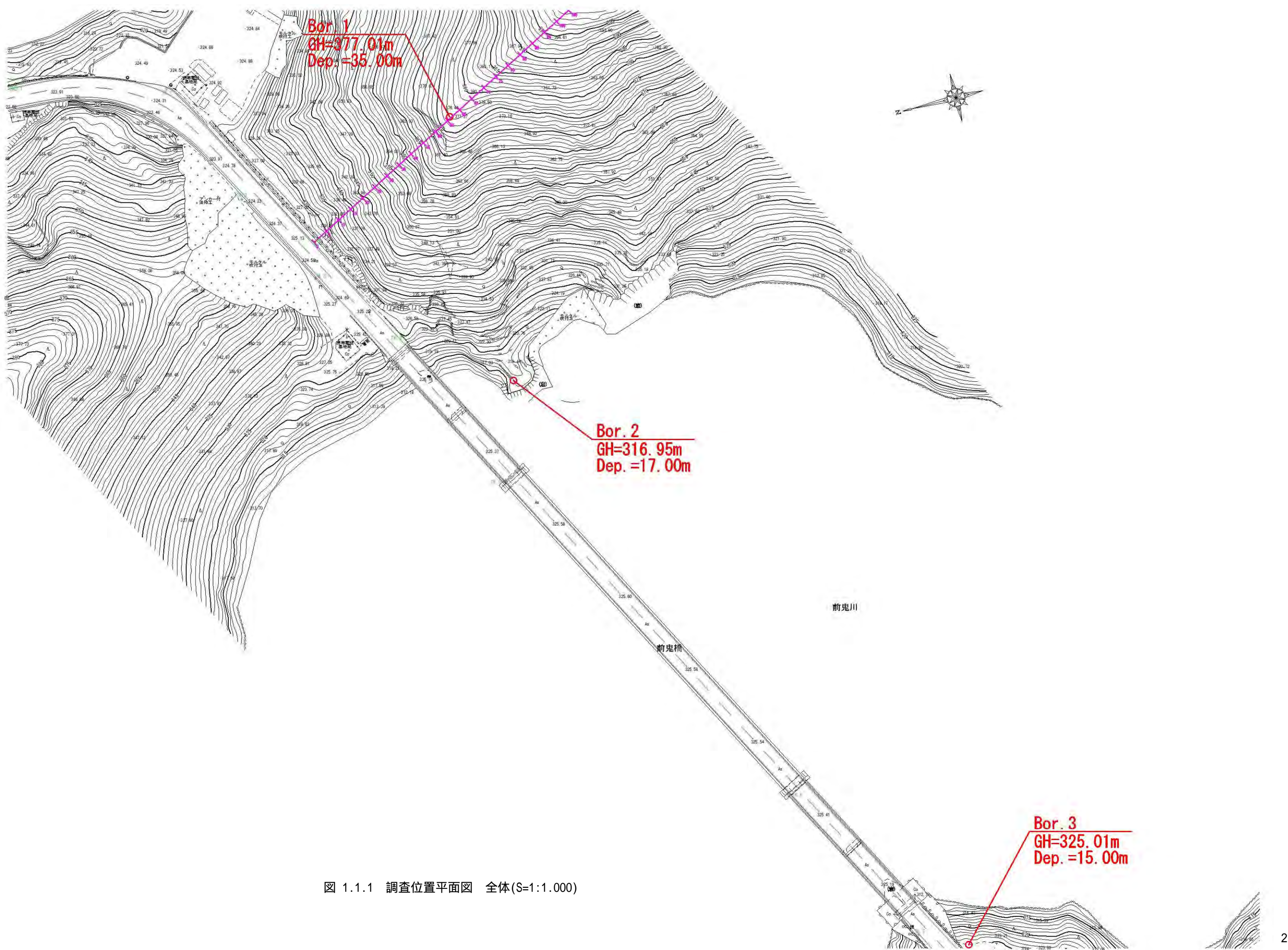


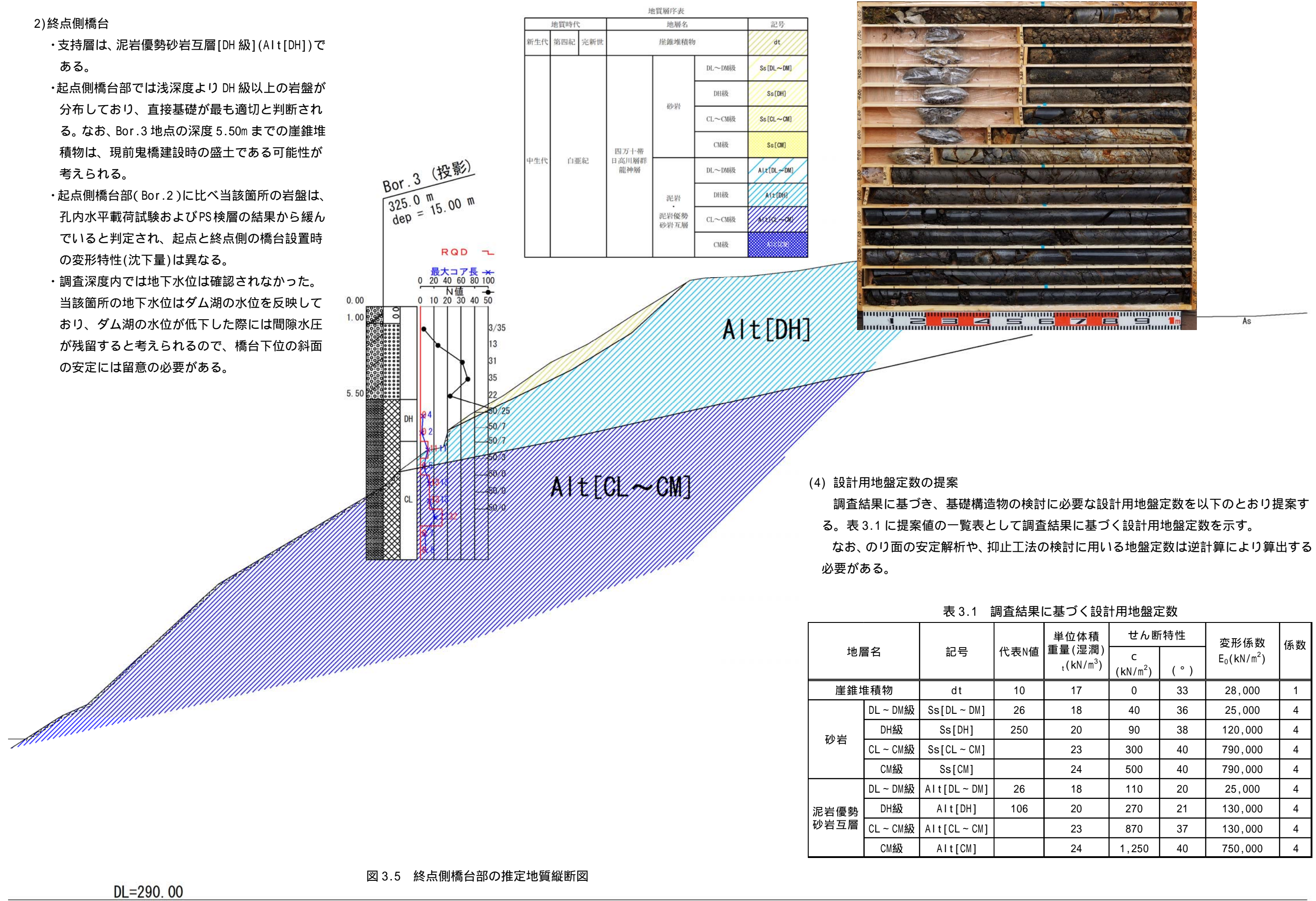
図 1.1.1 調査位置平面図 全体(S=1:1,000)

ボーリングコア写真 Bor. 3



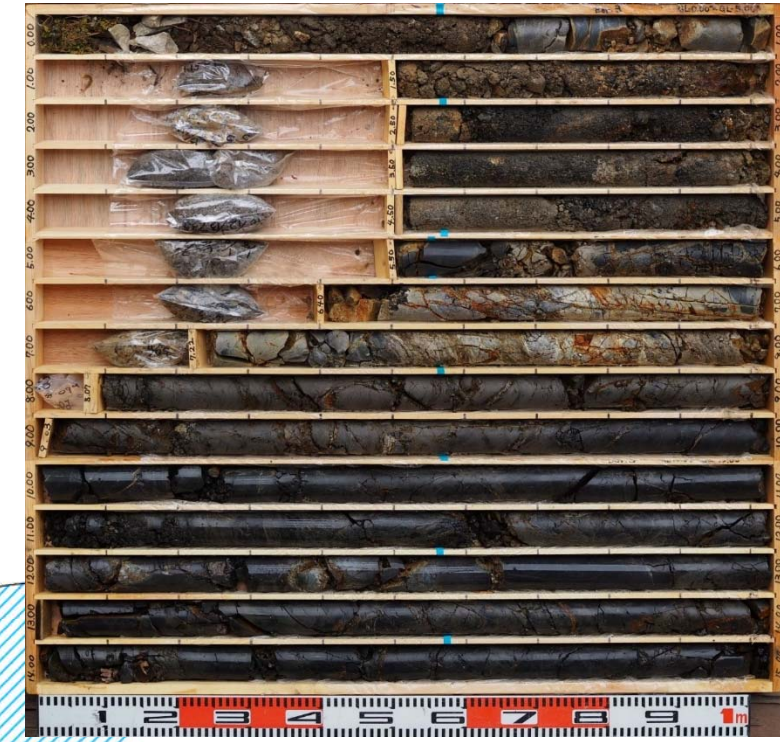
2) 終点側橋台

- ・支持層は、泥岩優勢砂岩互層[DH級](Alt[DH])である。
- ・起点側橋台部では浅深度よりDH級以上の岩盤が分布しており、直接基礎が最も適切と判断される。なお、Bor.3地点の深度5.50mまでの崖錐堆積物は、現前鬼橋建設時の盛土である可能性が考えられる。
- ・起点側橋台部(Bor.2)に比べ当該箇所の岩盤は、孔内水平載荷試験およびPS検層の結果から緩んでいると判定され、起点と終点側の橋台設置時の変形特性(沈下量)は異なる。
- ・調査深度内では地下水位は確認されなかった。当該箇所の地下水位はダム湖の水位を反映しており、ダム湖の水位が低下した際には間隙水圧が残留すると考えられるので、橋台下位の斜面の安定には留意の必要がある。



地質層序表

地質時代			地層名		記号
新生代	第四紀	完新世	崖錐堆積物		dt
中生代	白亜紀	四万十帯 日高川層群 龍神層	砂岩	DL~DM級	Ss[DL~DM]
				DH級	Ss[DH]
				CL~CM級	Ss[CL~CM]
				CM級	Ss[CM]
			泥岩 ・ 泥岩優勢 砂岩互層	DL~DM級	A1t[DL~DM]
				DH級	A1t[DH]
				CL~CM級	A1t[CL~CM]
				CM級	A1t[CM]



(4) 設計用地盤定数の提案

調査結果に基づき、基礎構造物の検討に必要な設計用地盤定数を以下のとおり提案する。表3.1に提案値の一覧表として調査結果に基づく設計用地盤定数を示す。
 なお、のり面の安定解析や、抑止工法の検討に用いる地盤定数は逆計算により算出する必要がある。

表 3.1 調査結果に基づく設計用地盤定数

地層名	記号	代表N値	単位体積重量(湿潤) t(kN/m ³)	せん断特性		変形係数 E ₀ (kN/m ²)	係数	
				c (kN/m ²)	(°)			
崖錐堆積物	dt	10	17	0	33	28,000	1	
砂岩	DL~DM級	Ss[DL~DM]	26	18	40	36	25,000	4
	DH級	Ss[DH]	250	20	90	38	120,000	4
	CL~CM級	Ss[CL~CM]		23	300	40	790,000	4
	CM級	Ss[CM]		24	500	40	790,000	4
泥岩優勢 砂岩互層	DL~DM級	A1t[DL~DM]	26	18	110	20	25,000	4
	DH級	A1t[DH]	106	20	270	21	130,000	4
	CL~CM級	A1t[CL~CM]		23	870	37	130,000	4
	CM級	A1t[CM]		24	1,250	40	750,000	4

図 3.5 終点側橋台部の推定地質縦断面図

DL=290.00